

神殿再建

シリーズ～旧約聖書入門～

2012/9/30

捕囚後の書物

パレスチナ

歴史書

預言書

エズラ記

ハガイ書

ゼカリヤ書

ネヘミヤ記

マラキ書

ペルシア

歴史書

預言書

ダニエル書

エステル記

バビロン捕囚からの帰還

- ペルシアの王キュロスによる解放宣言[エズラ1章]
 - 「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。」(1:2)
 - 解放しただけではなく、**神殿再建**を命じた!
- 最初に帰還した人たちは約5万人であった
 - これは最初のバビロン捕囚(紀元前605年)から約70年後の538年に起こった<**エレミヤの預言** 29:10他>
 - 祭司や神殿で使える人たちも多く含まれていた(2章)
 - まだ多くの人バビロン(ペルシア)に残っていた

神殿再建・着工

- 祭壇を作り、犠牲を献げる
 - 「彼らはその地の住民に恐れを抱きながら、その昔の土台の上に祭壇を築き、その上に焼き尽くす献げ物、朝と夕の焼き尽くす献げ物を主にささげた。」 3:3
- 神殿再建着工(536年)
 - 「エルサレムの神殿に帰った翌年の第二の月に、シェアルティエルの子~~ゼルバベル~~とヨツアダクの子~~イエシュア~~は彼らの他の兄弟たち、祭司とレビ人、および捕らわれの地からエルサレムに帰って来たすべての人と共に仕事に取りかかり、二十歳以上のレビ人を主の神殿の工事の指揮に当たらせた。」 3:8
 - 「昔の神殿を見たことのある多くの年取った祭司、レビ人、家長たちは、この神殿の基礎が据えられるのを見て大声をあげて泣き、また多くの者が喜びの叫び声をあげた。」 3:12

神殿再建・妨害

- 捕囚期にパレスチナに移り住んだ人たちがペルシアの王に書簡を送り、神殿再建を妨害した
 - 「この都は反逆の都で、歴代の王と諸州に損害を与えてきました。昔から反乱を繰り返し、そのためにこの都は破壊されたのです」4:15
 - 520年まで(16年間)、神殿再建は中断された
- 主は預言者ハガイとゼカリヤを通して語られた
 - 「今、お前たちは、この神殿を／廃虚のままにしておきながら／自分たちは板ではった家に住んでいてよいのか。」ハガイ1:4
 - 「再び、呼びかけて言え。万軍の主はこう言われる。わたしの町々は再び恵みで溢れ／主はシオンを再び慰め／エルサレムを再び選ばれる。」ゼカリヤ1:17

神殿再建・再開

- 預言者らの言葉に励まされ、神殿再建を再開した
 - 「シェアルティエルの子ゼルバベルとヨツアダクの子イエシュアは立ち上がって、エルサレムの神殿建築を再開した。神の預言者たちも彼らと共にいて、助けてくれた。」
- 敵は再びペルシアに書簡を送ったが、今度はキュロス王の勅令が見つかり、工事の助けを命じられた
 - 「かつて神殿があった場所にその神殿を再建しなければならない。この神殿を建てるために、あなたたちがそのユダの長老たちを援助することを、わたしは命ずる。その経費はユーフラテス西方からの税金による国費によって賄われ、滞りなく正確にそれを彼らに与えよ。」6:7-8

ゼカリヤの幻

○第五の幻：燭台とオリーブの木

- 「わたしは重ねて彼に尋ねた。『その二本のオリーブの木の枝先は何ですか。それは二本の金の管によって、そこから油を注ぎ出しています。』…彼は、『これは全地の主の御前に立つ、二人の油注がれた人たちである』と言った。」4:12-14
- 「彼は答えて、わたしに言った。『これがゼルバベルに向けられた主の言葉である。武力によらず、権力によらず／ただわが霊によって、と万軍の主は言われる。大いなる山よ、お前は何者か／ゼルバベルの前では平らにされる。彼が親石を取り出せば／見事、見事と叫びが上がる。』」4:6-7



神殿完成

- 516年,神殿は完成し,奉献祭,過越祭が行われた
 - 「そして七日間にわたって、喜び祝いつつ除酵祭を行った。主がアッシリアの王の心を彼らに向け、イスラエルの神の神殿を再建する工事を支援させて、彼らに喜びを与えられたからである。」6:22
- エズラの帰還
 - 律法教育
- 異民族の妻子との絶縁
 - 祭司を含む多くの帰還民が,異民族と結婚し,子どもも産まれていた。エズラは全員を離縁させせた!

主なる神は約束を守られる

- エレミヤの預言どおり捕囚から解放された

主なる神は世界を支配しておられる

- ペルシアによってバビロンを滅ぼし、ペルシアの王キュロスを動かされた

主なる神は無尽蔵の憐れみを持っておられる

- 捕囚後も同じ失敗を繰り返した民を赦し、矯正された

主なる神が始められたことでも、
妨害は起こる

- ・ 常に神様に信頼することを忘れないために

主なる神は『言葉』によって励まされる

- ・ かつては預言者を通して、今は聖書を通して励ましてくださる

私たちが頑張っているようだが、
実は主の霊が働いておられる！

- ・ 「武力によらず、権力によらず／ただわが霊によって」